
JMAT(日本医師会災害医療チーム)活動報告

2011年9月30日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

■ (1) 東日本大震災で JMAT に参加して - 立ち上がろう!! 団塊世代

<http://www.med.or.jp/nichinews/n230605m.html>

広島県医師会常任理事・日医広報委員・温泉川梅代

【支援期間】 東日本大震災の約3週間後の2011年4月4日から8日の5日間

移動日: 4月4日、8日 医療支援活動日: 4月5日から7日

【支援参加者】 広島県医師会 JMAT 第5班

合計6人: 医師3人〔外科2人(52歳、30歳)、産婦人科(団長: 温泉川先生64歳)〕、薬剤師(63歳)、看護師(33歳)、県医師会事務職員31歳

【医療支援場所】 宮城県石巻市 渡波小学校の避難所中心

・教室で子どもの机と椅子を使つての診察 ・体育館の巡回診察

【医療支援】

[診察環境] ・手書きのカルテ ・検査無し。視診、触診、聴診のみ

[主な診療] ・風邪、花粉と粉塵のためのせき ・慢性疾患のDO処方

[産婦人科医としての活動]

被災地が落ち着いた頃、精神的に不安定になる可能性がある

→DVや性被害が多くなる危険性がある

⇒避難所の看護師、責任者へ「性被害予防」、そのための「避難所での工夫」のパンフレットを配布

【被災者の現状】

手が荒れて腫れている

→簡易トイレに手洗いの水が無く、アルコール消毒を長期に行っている

⇒衛生面からも一日も早い上下水道の復旧が待たれる

大きな体育館の避難所に衝立なし

→女性の着替えに困り、子どもが泣くのに気兼ねする状態

⇒災害避難所にはパーテーション、マットなどの備えが必要

【支援者人選の課題】

余震が続き災害が治まらない状態(温泉川先生自身も震度6の余震に遭遇)

→支援者が被災者になる可能性

⇒体力、気力あり。人生に思い残す事が少ない。

団塊の世代の活躍に期待!!

災害後の急性期から慢性期への医療支援の変化

⇒適材適所、適時の派遣には国の大きい時々刻々の調査と統括が必要

■ (2) 活動を通じて再認識させられた地域医療、チーム医療の重要性

<http://www.med.or.jp/nichinews/n230705l.html>

大阪府医師会理事・日医広報委員・阪本栄

【支援期間】 2011年3月22日から5月31日

【支援参加者】 大阪府医師会 JMAT 26組 168名(チームアドバイザーを含む)

【派遣場所】 岩手県上閉伊郡大槌町

【先遣隊の活動】

- ・ JMAT の円滑な活動のため、郡市区等医師会や病院団体等に協力依頼
- ・ 岩手県災害対策本部(いわて災害医療支援ネットワーク)の指揮の下で活動
医療空白地だった大槌町大ヶ口地区の巡回診療を行う

⇒この地域の医療活動をしている医師の思いを感じる。

地域の医療・介護を支えるには平時からの住民間の絆が大切である。

【大阪医師会 JMAT の活動】

4月半ばまで

[活動場所] 岩手県立大槌高校内保健室

各医療救護チームが活動していて統制が取れない

⇒AMDA が調整して避難者の医療確保

→各医療救護チームで持ち込んだ医薬品が異なる

⇒薬剤師が対応

4月半ば以降

避難所の縮小が決定

→JMAT 間や地元医師会との調整が必要

⇒地元医師を支援する活動に変換

[活動場所] 寺野体育館(弓道場)内救護所

その後、順調に活動が推移する

6月に新たに県立大槌病院仮診療所、仮診療所三施設が再開される事が決定

⇒地元医療機能の復旧に活動をシフト

- ・ 仮診療所が再開することを受信者に説明
- ・ カルテを地元医師へスムーズに引き継ぐ準備

【活動終了】・ 伯井俊明(大阪医師会会長)の活動報告

国民皆保険制度の下、地域で受けられる医療に格差が生じないよう、一致団結した地域住民のための医療復興をお願いし終了